

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1 (公財)毎日新聞西部社会事業団
 発行人 瀬尾 健悟
 電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
 E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
 郵便振替 01770-2-40213
 URL http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/



臨時評議員会では、人事異動に伴い、渡辺勇次、嶋岡倫志、野沢俊司3氏が評議員を辞任。後任には石井彰氏(RKB毎日放送北九州支社長)▽松藤幸之輔氏

評議員が3人交代

北九州市の毎日新聞会議室であった通常理事會

17年度予算など承認

役員会 例年並み事業予定

毎日新聞西部社会事業団は、2017年3月17日に16年度第2回通常理事會と第1回臨時評議員会を北九州市小倉北区の毎日新聞西部社会事業団会議室で開議。理事會では17年度予算案や事業計画案を審議、事業予算は16年度をやや上回る5700万円規模、各種事業も例年並みの内容で実施することを決めた。

◆16海外難民救援事業—23団体へ◆

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面と連動させ1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救援キャンペーン」としてスタートした海外難民救援事業は、2016年で38年目を迎えた。今回は、「ヨルダンのシリア難民」をテーマに、9月上旬から10月にかけて、ヨルダンで大阪本社の記者とカメラマンが、シリア難民の子どもたちの窮状取材し「熱砂のかなたに」と題して紙面で連載した。

西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ペシャワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど23団体に総額960万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は16億1463万8344円になった。

海外救援金の配分先は以下の通り。

日本ユニセフ協会▽国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽国境なき医師団▽AMDA▽シエラ(国際保健協力市民の会)▽JEN▽シャンティ国際ボランティア会▽AAR(難民を助ける会)▽JVC(日本国際ボランティアセンター)▽ピースウィンズ・ジャパン▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽シエラレオネフレンズ▽ネパール・ヨードを支える会▽NGOパル地震防災実行委員会▽日本国際民間協力会▽アジア協会・アジア友の会▽リガラス・ジャパン▽ペシャワール会▽ロシナンテス

◆16小児がん征圧事業—27団体に◆



平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる—小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病など闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した=写真。当年度は、東京、大阪と合わせ全国で27団体に、1290万円を配分。第1次から第21次までの贈呈総額は3億1390万円となった。小児がん征圧募金の配分団体は以下の通り。

▽がんの子供を守る会(含むスマートムンストーン)▽難病のこども支援全国ネットワーク▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽白血病研究基金を育てる会▽ソらぶちキッズキャンプ▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽ゴールドリボン・ネットワーク▽NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニックラウン協会▽近畿小児血液・がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽あいち骨髄バンクを支援する会▽守口ぶどうのいえ▽こどものホスピスプロジェクトTSURUMIこどもホスピス▽Japan Hair Donation & Charity

【西部管内】NPO法人にこま九州▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽九州大学小児医療センター親の会「すまいる」▽たんぼぼハウス(熊本)▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽福岡大学病院小児科親の会「みらい」▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会

第49回山口県アイリンピック大会 山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。県児童福祉連絡会議など7団体主催、当事業団など8団体が後援。助成し5月21日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。2000人が参加した。第9回からびかキャン2007年度までの32年間、本事業団がYMCAに助成して心身障害児を対象に実施してきた「のびのびキャンプ」を衣替えし、20年度から発達障害児対象の新キャンプとしてスタート。YMCAが実施するキャンプは会員以外でも参加できるようにすることを条件に引き続き助成した。平成28年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー 筑豊地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に、卒業後の社会人としての自覚を促すために実施。7月に第1回研修会を職場で行い、夏休み期間中に職場

16 児童福祉事業8件

児童虐待や養育放棄など、子どもたちを取り巻く環境は相変わらず厳しい。未来を担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため、今期も例年通り8件の事業を助成・援助した。

青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホーム」年間運営費助成 児童養護施設退所後の15歳から20歳の青少年の自立を支援するNPO団体。2008年7月に「かんらん舎」をオープンし、15年度には2か所目のホームを開設した。資金不足のため厳しい状態が続いており、今期も「母の日・父の日募金」を財源に助成した。

福祉施設のうち91人に、新しいランドセルが1年生には1人1個、手引きリュック、サック、図書カード、雨具セット、図書カード(4千円分)のいずれかを▽中・高校卒業予定者に目覚まし時計か図書カード(5千円分)を祝い品としてプレゼント。

◆16福祉団体助成事業◆

前年度と同じ12団体(13件)に助成金を贈った。助成団体(事業)は次の通り。

あしなが育英会▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」▽「大分のいのちの電話」30周年記念事業▽「福岡盲ろう者友の会」▽ホームレス支援のNPO法人抱擁▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会

☆山口県アイリンピック大会☆ 1770人が競技で汗



障害を持つ人や児童養護施設で暮らす子どもらが運動を通して交流する山口県アイリンピック(県主催)が5月20日、山口市の維新百年記念公園で開かれた。「愛のオリリンピック」という意味で名付けられた大会は、5月の児童福祉月間にあわせて毎年開催されている。今年約1770人が、レクリエーションや大

玉送りなどの競技で汗を流した。なかでも約630人が参加するパン食い競争は人気種目。写真。パンを取り損ねる人や、なかなかわえられない人などへ会場からは声援が送られた。参加者は「楽しかった。来年も出たい」と笑顔で話した。閉会式では古川英希県障害福祉サービス協議会会長が「みなさん楽しかったでなすか」と語りかけ、和やかな雰囲気で開催した。

◆16障害者福祉事業◆

助成・援助の事業件数としては最も多く、今期はすべてが継続事業で、計18件。うち名義後援のみは4件だった。

「声の点字毎日」発行▽第39回毎日サマースクール▽北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク▽第37回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第27回北九州市障害者水泳大会▽第41回「わたぼうし音楽祭」▽第16回ごろりんハウス交流キャンプ▽第51回九州地区聾学校体育・文化連盟大分大会▽第85回全国盲学校弁論大会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽第36回「出発(たびだち)を励ます集い」▽第35回北九州市障害者ボウリング大会▽北九州OPEN(国際車いすテニストーナメント2017北九州)

【名義後援事業】第14回オンキョー一点字作文コンクール▽第34回北九州精神障害者家族会連合会総会▽第54回北九州市障害者スポーツ大会▽第35回肢体不自由児者の美術展

◆16災害被災者救援事業◆

新年度が始まって間もなく立て続けに発生した熊本地震。隣県の大分も含め大きな被害が出た。被災者・被災地を支援しようという思いから多くの人々が募金を寄せ、5月、7月、3月に合わせて2000万円を熊本、大分両県に送金。東京、大阪と合わせた贈呈額は1億6300万円になった。新年度も引き続き募金を受け付けるため、残金は次年度に繰り越した。

東日本大震災救援金と毎日希望奨学金は、前年度よりも額は少なくなったものの、多くの方々から善意が寄せられた。東日本大震災救援金は日本赤十字社へ50万円▽希望奨学金は、事務を担当する大阪社会事業団へ300万円送金した。ともに残金は次年度に繰り越した。また、9月にはイタリアで起きた地震の救援金を呼びかけ、イタリア大使館に届けた。

西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分、贈呈した。

【東日本大震災被災者救援金】日本赤十字社へ50万円【毎日希望奨学金】大阪社会事業団へ300万円【熊本地震救援金】熊本県へ1800万円▽大分県へ200万円【イタリア地震救援金】イタリア大使館へ2万1000円